



# 総則

## 建築接着工法編

### 1.1 目的

第Ⅲ部【建築接着工法編】は、各種建築材料を接着施工するにあたり、最適な、かつVOC排出量の少ない接着剤選定を行う参考とすることを目的としている。

接着剤はその用途に応じて、形態や使用方法が異なり、多種多様な製品が市場に出回っている。最近では部材の変化、火気、臭気の観点から無溶剤タイプの変成シリコーン樹脂系やウレタン樹脂系の使用が広まっている。これらの中から、使いやすさ、安全性、性能及びコスト等の諸条件を考慮して最適なものを選び、かつ、正しく使いこなす必要がある。その一助として以下に情報を整理した。

### 1.2 適用範囲

本ガイドは、主に内装工事に用いられる接着剤について記述するが、国土交通省「公共建築（改修）工事標準仕様書」や日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS26 内装工事」などとあわせて、使用していただきたい。

また、接着剤の選定にあたっては、建築材料の種類、施工時の下地条件、施工後の使用条件も重要である。これらを考慮したうえで、VOC 排出量の少ない接着剤を選択していただきたい。

# III.2

## タイル工事・石工事

### 建築接着工法編

#### 2.1 陶磁器質タイル・石材用接着剤

建築現場で手張り方式により陶磁器質タイル及び石材を張り付ける工事に用いられる接着剤は、JIS A 5548「陶磁器質タイル用接着剤」に品質、性能が規定されており、施工箇所により使い分けがされる。

タイル工事・石工事に使用される接着剤のVOC量は接着剤主成分による差異は小さい。

仕上材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件		施工後の使用条件				塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )
			コンクリート下地 モルタル		ボード類	一般的な使用	耐水性を要する箇所 (浴室・厨房など)	耐熱性を要する箇所 (サウナなど)		
			乾燥状態	湿潤状態						
			A	B						
陶磁器質 タイル	アクリル樹脂系 エマルジョン形	JIS A 5548 (タイプII)	◎	×	○	◎	×	×	1500	45
	エポキシ樹脂系	JIS A 5548 (タイプI)	◎	◎	○	◎	◎	×		
	ウレタン樹脂系	JIS A 5548 (タイプI)	◎	◎	○	◎	◎	○		
	変成シリコン樹脂系	JIS A 5548 (タイプI、II)	◎	◎	○	◎	◎	◎		
石材	エポキシ樹脂系	JIS A 5548 (タイプI)	◎	◎	○	◎	◎	×	1200	36
	ウレタン樹脂系	JIS A 5548 (タイプI)	○	○	○	○	○	○		
	変成シリコン樹脂系	JIS A 5548 (タイプI、II)	◎	◎	○	◎	○	◎		

◎:優 ○:実用可 ×:不可

# III.3

## 内装工事

### 建築接着工法編

#### 3.1 木工事

木れんが及び巾木など造作工事に用いられる接着剤について記述する。

木れんがの接着施工に用いられる接着剤はJIS A 5537「木れんが用接着剤」に、巾木など造作工事に用いられる接着剤はJIS A 5549「造作用接着剤」に品質、性能が規定されている。造作用接着剤では幅広い部材、施工箇所に使用されるため、特に選定に際しては材料、施工後の使用条件などには注意が必要となる。

仕上材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件				施工後の使用条件				塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )
			コンクリート モルタル 下地		木質材料	非多孔質材料	一般的な使用	耐水性を要する箇所	耐熱性を要する箇所	連続荷重のかかる箇所		
			乾燥状態	湿潤状態								
木れんが	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5537	◎	×	◎	×	◎	×	×	×	1100	440
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	800	24
	アクリル樹脂系エマルション形		◎	△	◎	×	◎	△	△	○	1100	33
	変成シリコン樹脂系		◎	○	◎	×	◎	◎	◎	○	800	24
造作材	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5549	◎	×	◎	△	◎	×	×	△	250	100
	エポキシ樹脂系		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		7.5
	アクリル樹脂系エマルション形		◎	×	◎	×	◎	×	×	○		
	変成シリコン樹脂系		◎	○	◎	○	◎	○	◎	○		
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎		
	ビニル共重合樹脂系エマルション形		◎	×	◎	×	◎	×	×	△	180	5.4
	合成ゴム系溶剤形		◎	×	◎	◎	◎	×	×	△	250	200
	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		-	×	◎	×	◎	×	×	△	180	5.4
シリル化ウレタン樹脂系	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	250	7.5		

◎:優 ○:実用可 △:要注意 ×:不可 -:不使用

### 3.2 床仕上げ材張り工事

床仕上げ材を張り付ける接着剤は、JIS A 5536「床仕上げ材用接着剤」に品質、性能が規定されている。

代表的な床仕上げ材には、木質系床仕上げ材、高分子系張り床材、カーペットがあり、施工環境、仕上げ材種類により接着剤に要求される性能は異なる。

床材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件					施工後の使用条件					塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )
			コンクリート 下地	モルタル 表面は乾燥しているが 湿気が残っている	木質下地	金属下地	セルフレベリング下地 (せこう・セメント系)	一般的な使用	耐水性を要する箇所 (トイレ・厨房など)	耐熱性を要する箇所 (床暖房など)	(医療機器・手押し車など)	動荷重の移動する場所		
コンポジット コンクリート 床タイル	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5536	◎	×	◎	×	○	◎	×	×	×	350	140	
	ビニル共重合樹脂系溶剤形		◎	×	◎	×	○	◎	×	×	×			
	ビニル共重合樹脂系エマルジョン形		◎	×	◎	×	×	◎	×	×	×	300	9	
	アクリル樹脂系エマルジョン形		◎	×	◎	×	×	◎	×	×	×			
	ゴム系ラテックス形		◎	×	○	×	×	◎	×	×	×			
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎			
ホモジニアス ビニル 床タイル	ビニル共重合樹脂系溶剤形	JIS A 5536	◎	×	◎	×	○	◎	×	×	×	350	140	
	アクリル樹脂系エマルジョン形		◎	×	○	×	×	◎	×	×	×	300	9	
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎			
ビュア ビニル 床タイル	ビニル共重合樹脂系溶剤形	JIS A 5536	○	×	◎	×	×	○	×	×	×	350	140	
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	○	○	○	◎	○	○	○			
ゴム質系 床タイル	クロロプレンゴム系溶剤形	JIS A 5536	◎	×	○	◎	×	◎	×	×	◎	450	360	
	ニトリルゴム系溶剤形		◎	×	○	◎	×	◎	×	×	○			
	エポキシ樹脂系		○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎			

◎:優 ○:実用可 ×:不可 -:不使用

床材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件					施工後の使用条件				塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )									
			コンクリート 下地	モルタル 表面は乾燥しているが 湿気が残っている	木質下地	金属下地	セルフレベリング下地 (せつこう・セメント系)	一般的な使用	耐水性を要する箇所 (トイレ・厨房など)	耐熱性を要する箇所 (床暖房など)	(医療機器・手押し車など)			動荷重の移動する場所								
															乾燥している	湿気が残っている	乾燥している	乾燥している	乾燥している	乾燥している	乾燥している	乾燥している
															A	B	C	D	E	F	G	H
ビニル床シート(発泡層のあるもの・ないものを含む)	単体	JIS A 5536	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	×	×	×	350	140								
			ビニル共重合樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	×	×	×										
			ニトリルゴム系溶剤形	—	—	—	◎	×	—	×	×	×	450	360								
			ビニル共重合樹脂系エマルジョン形	○	×	○	×	×	○	×	×	×	300	9								
			アクリル樹脂系エマルジョン形	○	×	○	×	×	○	×	×	×										
			エポキシ樹脂系	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	350	105								
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	○	○	◎	○	○	○											
	織布積層		酢酸ビニル樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	×	×	×	350	140								
			ビニル共重合樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	×	×	×										
			ニトリルゴム系溶剤形	—	—	—	◎	×	—	×	×	×	450	360								
			酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形	○	×	○	×	×	○	×	×	×	300	9								
			ビニル共重合樹脂系エマルジョン形	○	×	○	×	×	○	×	×	×										
			アクリル樹脂系エマルジョン形	○	×	○	×	×	○	×	×	×	350	105								
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎											
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎											
	(フエルトを除く) 不織布積層		酢酸ビニル樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	×	○	×	350	140								
			ビニル共重合樹脂系溶剤形	○	×	○	×	○	○	○	○	×										
			クロロプレンゴム系溶剤形	—	—	—	○	×	—	×	×	×	450	360								
ニトリルゴム系溶剤形		—	—	—	○	×	—	×	×	×												
酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形		○	×	○	×	×	○	×	×	×	300	9										
ビニル共重合樹脂系エマルジョン形		○	×	○	×	×	○	×	×	×												
アクリル樹脂系エマルジョン形		○	×	○	×	×	○	×	×	×												
ゴム系ラテックス形		○	×	○	×	×	○	×	×	×	350	105										
エポキシ樹脂系		◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎												
ウレタン樹脂系	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎													

◎:優 ○:実用可 ×:不可 —:不使用

床材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件					施工後の使用条件				塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )	
			コンクリート 下地	モルタル 表面は乾燥しているが 湿気が残っている	木質下地	金属下地	セルフレベリング下地 (せつこう・セメント系)	一般的な使用	耐水性を要する箇所 (トイレ・厨房など)	耐熱性を要する箇所 (床暖房など)	(医療機器・手押し車など)			動荷重の移動する場所
リノリウム	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5536	○	—	○	×	○	○	×	×	×	350	140	
	ビニル共重合樹脂系溶剤形		○	—	○	×	○	○	×	×	×			
	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		○	—	○	×	×	○	×	×	×	300	9	
	ビニル共重合樹脂系エマルション形		○	—	○	×	×	○	×	×	×			
	アクリル樹脂系エマルション形		○	—	○	×	×	○	×	×	×			
	エポキシ樹脂系		○	—	○	○	○	○	○	○	○	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	—	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			
コルク	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5536	○	—	○	×	○	○	×	×	—	350	140	
	ビニル共重合樹脂系溶剤形		○	—	○	×	○	○	×	×	—			
	クロロプレンゴム系溶剤形		◎	—	◎	◎	○	◎	×	×	—	450	360	
	エポキシ樹脂系		◎	—	◎	◎	○	◎	◎	◎	—	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	—	◎	◎	○	◎	◎	◎	—			
木質系床材	緩衝材なし	JIS A 5536	○	×	○	×	×	○	×	×	—	300 ~600	120 ~240	
			クロロプレンゴム系溶剤形	○	×	○	○	×	○	○	×		—	240 ~480
			酢酸ビニル樹脂系エマルション形	×	×	×	×	×	○	×	×		—	9~18
			アクリル樹脂系エマルション形	×	×	○	×	×	○	×	×		—	
			変成シリコーン樹脂系	×	×	○	×	○	○	○	○		—	9~18
			エポキシ樹脂系	◎	×	◎	◎	○	◎	◎	◎		—	60 ~120
			ウレタン樹脂系	◎	×	◎	○	○	◎	◎	◎		—	
	緩衝材つき		クロロプレンゴム系溶剤形	○	×	○	○	×	○	○	×		—	240 ~480
			エポキシ樹脂系	◎	×	◎	◎	○	◎	◎	◎		—	60 ~120
			ウレタン樹脂系	◎	×	◎	○	○	◎	◎	◎		—	

◎:優 ○:実用可 ×:不可 —:不使用

床材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の下地条件					施工後の使用条件				塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )	
			コンクリート 下地	モルタル 表面は乾燥しているが 湿気が残っている	木質下地	金属下地	セルフレベリング下地 (せつこう・セメント系)	一般的な使用	耐水性を要する箇所 (トイレ・厨房など)	耐熱性を要する箇所 (床暖房など)	(医療機器・手押し車など)			動荷重の移動する場所
レジン系 ソート	クロプレングム系溶剤形	JIS A 5536	○	○	○	—	○	○	○	○	—	450	360	
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	—	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	—	350	105	
カーペット	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5536	○	×	○	×	○	○	×	○	○	350	140	
	ビニル共重合樹脂系溶剤形		○	×	○	×	○	○	×	○	○	450	360	
	クロプレングム系溶剤形		—	×	○	○	×	—	×	○	○	300	9	
	ニトリルゴム系溶剤形		—	×	○	○	×	—	×	○	○	350	105	
	ビニル共重合樹脂系エマルジョン形		○	×	○	×	×	○	×	○	×	100	3	
	アクリル樹脂系エマルジョン形		○	×	○	×	×	○	×	○	×	450	360	
	ゴム系ラテックス形		○	×	○	×	×	○	×	◎	×	350	105	
	エポキシ樹脂系		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	350	105	
ウレタン樹脂系	○	○	○	○	○	○	○	○	○	350	105			
タイル ベッコ トカ	アクリル樹脂系エマルジョン形 (ピールアップタイプ)	JIS A 5550	○	×	○	○	○	○	—	×	×	100	3	
人工芝	クロプレングム系溶剤形		○	×	○	—	○	○	×	○	—	450	360	
	ニトリルゴム系溶剤形		○	×	○	—	○	○	×	○	—	350	105	
	エポキシ樹脂系		◎	○	◎	—	◎	◎	○	◎	—	350	105	
	ウレタン樹脂系		◎	○	◎	—	◎	◎	○	○	—	350	105	
根太材 ※	クロプレングム系溶剤形		—	—	◎	—	—	◎	×	×	—	600	480	
	ウレタン樹脂系		—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	—		180	
	変成シリコン樹脂系		—	—	◎	—	—	◎	◎	◎	—		18	
	酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形	—	—	◎	—	—	◎	×	×	—				
	ビニル共重合樹脂系エマルジョン形	—	—	◎	—	—	◎	×	×	—				
	アクリル樹脂系エマルジョン形	—	—	◎	—	—	◎	×	×	—				

※根太材施工時の木質下地は合板

◎:優 ○:実用可 ×:不可 —:不使用

### 3.3 壁・天井ボード張り工事

壁・天井仕上げ材は各種ボード類と壁紙類に大別される。壁紙施工に用いられるでん粉系接着剤は、JIS A 6922「壁紙施工用及び建具用でん粉系接着剤」に品質、性能が規定されているが、ここでは、発泡プラスチック保温板を除く建築用ボード類を張り付ける接着剤について記述する。この接着剤はJIS A 5538「壁・天井ボード用接着剤」に品質、性能が規定されている。

施工される材料、使用する接着剤により塗布方法が異なるケースが多く、施工の際は注意する必要がある。

#### 3.3.1 壁張り工事

仕上材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の条件								施工後の条件		塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )	
			下地材の種類(乾燥状態)								耐水性を要する箇所 (洗面所・流し回りなど)	耐熱性を要する箇所 (ストーブ回りなど)			
			合板	せっこうボード	セメント系ボード類	パーティクルボード類	胴縁木組	軽量鉄骨組	ALC・ブロック積み	コンクリート・モルタル					水分の多い下地
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K					
合板・繊維板・パーティクルボード	酢酸ビニル樹脂系エマルション形	JIS A 5538	—	◎	—	—	◎	—	—	×	有	×	△	170	5.1
	合成ゴム系溶剤形		—	◎	—	—	◎	—	—	×	無	○	○	120	96
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ		—	◎	—	—	◎	◎	—	×	無	○	○	220	132
せっこうボード	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		—	◎	—	—	◎	—	—	×	有	×	△	170	5.1
	酢酸ビニル樹脂系溶剤形		—	◎	—	—	◎	△	—	×	有	×	△	250	100
	合成ゴム系溶剤形		—	◎	—	—	◎	—	—	—	無	○	○	120	96
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ		—	◎	—	—	◎	◎	◎	×	無	○	○	220	132
	エポキシ樹脂系		—	—	—	—	—	—	◎	△	有	◎	◎	270	8.1
	ウレタン樹脂系		—	—	—	—	—	◎	◎	×	有	◎	◎		
変成シリコン樹脂系	—		—	—	—	—	◎	◎	×	有	◎	◎			
セメント系ボード類	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		—	○	—	—	—	—	—	×	有	×	△	170	5.1
	酢酸ビニル樹脂系溶剤形		—	◎	—	—	◎	△	—	×	有	×	△	250	100
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ	—	◎	—	—	◎	◎	◎	×	無	○	○	220	132	
	エポキシ樹脂系	—	—	—	—	—	—	◎	△	有	◎	◎	270	8.1	
	ウレタン樹脂系	—	—	—	—	—	◎	◎	×	有	◎	◎			
	変成シリコン樹脂系	—	—	—	—	—	◎	◎	×	有	◎	◎			
グラスウールボード	酢酸ビニル樹脂系エマルション形	—	◎	—	—	—	—	◎	×	有	×	△	170	5.1	
	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	—	◎	—	—	—	—	—	×	有	×	△	250	100	
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ	—	—	—	—	—	—	◎	×	無	○	○	220	132	
塩ビシート(裏打ちなし)	ニトリルゴム系溶剤形	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	×	無	○	○	120	96	

◎:優 ○:実用可 △:要注意 ×:不可 —:不使用

### 3.3.2 天井張り工事

仕上材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時の条件						施工後の条件		塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )		
			下地材の種類(乾燥状態)						水分の多い下地	釘併用の必要性			(洗面所・流し回りなど) 耐水性を要する箇所	(ストップ回りなど) 耐熱性を要する箇所
			合板	せつこうボード	ボード類	セメント系	木造野縁	軽量鉄骨野縁						
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J					
合板・繊維板・パーティクルボード	酢酸ビニル樹脂系エマルション形	JIS A 5538	—	◎	—	◎	—	—	×	有	×	△	170	5.1
	合成ゴム系溶剤形		—	◎	—	◎	—	—	—	有	○	○	120	96
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ		—	◎	—	◎	◎	—	×	有	○	○	220	132
せつこう系ボード類	酢酸ビニル樹脂系溶剤形		—	◎	—	◎	△	—	×	有	×	△	250	100
	合成ゴム系溶剤形		—	◎	—	◎	—	—	×	有	○	○	120	96
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ		—	◎	—	◎	◎	—	×	有	○	○	220	132
	エポキシ樹脂系		—	—	—	—	—	◎	△	有	◎	◎	270	8.1
	ウレタン樹脂系		—	—	—	—	—	◎	×	有	◎	◎		
	変成シリコーン樹脂系		—	—	—	—	—	◎	×	有	◎	◎		
セメント系ボード類	酢酸ビニル樹脂系溶剤形		—	◎	—	◎	△	—	×	有	×	△	250	100
	合成ゴム系溶剤形		—	◎	—	◎	—	—	×	有	○	○	120	96
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ		—	◎	—	◎	◎	—	×	有	○	○	220	132
	エポキシ樹脂系	—	—	—	—	—	◎	△	有	◎	◎	270	8.1	
	ウレタン樹脂系	—	—	—	—	—	◎	×	有	◎	◎			
	変成シリコーン樹脂系	—	—	—	—	—	◎	×	有	◎	◎			
グラスウールボード・ロックウールボード	酢酸ビニル樹脂系エマルション形	—	◎	—	◎	—	—	×	有	×	△	170	5.1	
	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	—	◎	◎	◎	△	◎	×	有	×	△	250	100	
	合成ゴム系溶剤形 マスチックタイプ	—	—	—	◎	◎	◎	×	有	○	○	220	132	
打ちなし(裏シート)	軟質塩ビニトリルゴム系溶剤形		◎	◎	◎	—	—	◎	×	無	○	○	120	96

◎:優 ○:実用可 △:要注意 ×:不可 —:不使用

釘併用の必要性 無:不要 有:必要

### 3.4 断熱・防露工事

建築内部に断熱材を直接取り付ける工事に用いられる接着剤は、JIS A 5547「発泡プラスチック保温板用接着剤」に品質、性能が規定されている。

グラスウールなど繊維系断熱材は接着金物を用いて間接的に取り付けるケースが多い。ここでは断熱材を直接取り付ける際に用いられる接着剤の選定基準について記述する。

断熱材の種類	適用接着剤	該当JIS No.	施工時					施工後		塗布量 (g/m <sup>2</sup> )	VOC量 (g/m <sup>2</sup> )
			下地材			水分の多い下地	仮止めの必要性	耐水性を要する箇所	耐熱性を要する箇所		
			木質系	モルタル・ALC コンクリート 石膏ボード	金属系						
ポリスチレンフォーム保温材	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	JIS A 5547	◎	◎	△	×	有	×	△	250	100
	再生ゴム系溶剤形		◎	◎	○	×	無	○	△	120	96
	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		◎	◎	—	×	有	×	△	170	5.1
	ゴム系ラテックス形		◎	◎	—	×	有	×	△		
	ウレタン樹脂系		◎	◎	◎	×	有	◎	◎	250	7.5
	変成シリコン樹脂系		◎	◎	◎	○	有	◎	◎		7.5
硬質ウレタンフォーム保温材・ フェノールフォーム保温材・ ポリエチレンフォーム保温材	酢酸ビニル樹脂系溶剤形		◎	◎	△	×	有	×	△	250	100
	ゴム系溶剤形		◎	◎	○	×	無	○	○	120	96
	酢酸ビニル樹脂系エマルション形		◎	◎	—	×	有	×	△	170	5.1
	ゴム系ラテックス形		◎	◎	—	×	有	×	△		
	ウレタン樹脂系		◎	◎	◎	×	有	◎	◎	250	7.5
	変成シリコン樹脂系		◎	◎	◎	○	有	◎	◎		7.5
ロックウール・グラスウール	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	◎	◎	△	×	有	×	△	250	100	
	ゴム系溶剤形	◎	◎	○	×	無	○	○	120	96	
	酢酸ビニル樹脂系エマルション形	◎	◎	—	×	有	×	△	170	5.1	
	ウレタン樹脂系	◎	◎	◎	×	有	◎	◎	250	7.5	
	変成シリコン樹脂系	◎	◎	◎	○	有	◎	◎		7.5	

◎:優 ○:実用可 △:要注意 ×:不可 —:実用上の組み合わせが少ない  
仮止めの必要性 無:不要 有:必要

注] 天井部位への接着剤のみによる施工については、断熱材の種類、大きさなどによって(例えば裏打ちパネルなど)不適当な場合があるので十分注意のこと。その際は原則として釘類を併用する。